

弘前市立博物館

ニュースレター

No.21

Hirozaki City Museum Newsletter

■令和8年になりました

新年あけましておめでとうございます。年末年始の雪で弘前公園もすっかり冬の装いです。

さて博物館では、昨年に引き続き企画展「ひろさき歴史大図鑑」の後期展示を開催中です。本企画展は、旧石器から昭和に至る弘前の歴史を紹介する企画展であり、普段の常設展ではスペースの都合でなかなかお見せできない豊富な種類の考古遺物、大きな絵図や屏風、襖絵なども久しぶりに展示しています。また昨年令和7年は青森県りんご植栽150周年の記念の年であり、博物館でもりんごコーナーをボリュームアップして展示しています。

目玉資料として、「津軽為信・信枚・信義像 掛軸 三幅対」(黒石神社蔵)も前期に引き続き展示中です。

本企画展は弘前の歴史そして文化を見ごたえたつぷりに感じられる展示となっております。会期は1月12日(月・祝)まで開催しておりますので、ぜひお楽しみください。

博物館は令和8年も、弘前の歴史・文化などを精力的に発信していきます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

■企画展「ひろさき歴史大図鑑」

【ふりかえり！学芸員のイチ押し紹介】
・砂沢遺跡出土品より猪の顔(考古資料その1)

今回の「大図鑑」展で、考古部門を担当した、三國と申します。いつもの常設展示よりもかなり広いスペースを使うことができ、普段はお見せできていない出土品をたくさん展示することができました。考古ファンならずとも、今回の縄文時代・弥生時代の出土品の展示数や種類の豊富さを、ぜひとも楽しんでいただきたいと思います。

その中で私が個人的におすすめしたいのは、弥生時代の米づくりの痕跡が発見された砂沢遺跡出土品から、猪の顔の形をかわいく再現した土製品です。



▲イノシシ顔の土製品(砂沢遺跡)

土製品とは言っても、もしかしたらこのイノシシは土器の一部として貼り付けてあったものかもしれません。いずれにしても、「かわいい」

ことに間違いはありませんよ。

非常に小さなものなので、その可愛さに気付かずに惜しくも通り過ぎてしまうお客様もいらっしゃるかもしれません。もったいない！

最初の部屋(歴史展示室)中央にドーンと構えている特大のケースを一周していただくと、かわいらしいイノシシの顔に出会えるでしょう。ゆっくり探してみてくださいね。

・フシギな直方体サイコロ(考古資料その2)

二つ目のおすすめは、平安時代のサイコロです。「な〜んだ。サイコロか。」って？そう言わないで、まずはその形を見てくださいよ。

展示場所は古代のコーナー。早稲田遺跡の出土品です。真っ赤な布の上に鎮座している白っぽくて四角い石が、そのサイコロです。

石はチャートという種類だそうです。何と言っても私たちがよくスゴロクで振っている真四角(立方体)のとはちがって、なんか細長い形をしています。よく見ると直方体の一番せまい2面が漢字の「五」「六」になっています。

「1・2・3・4」より「5・6」が出にくいこの不思議なサイコロ。いったい何の目的で使っていたのでしょうか。



考えれば考えるほどフシギですねえ。



▲直方体サイコロ(早稲田遺跡)
(担当学芸員 三國)

・「津軽弘前城之絵図」

正保2年(1645)

(弘前市指定有形文化財)

弘前城の城や江戸時代の城下町を描いた絵図の中でも「津軽弘前城之絵図」は最古級のものと言えるでしょう。作成時期は 380 年前の正保2年(1645)と推定されています。各地の大名が幕府の命令で作成した「正保城絵図」と呼ばれる絵図群がありますが、本図はその中の弘前城絵図の写しです。ただ写しとはいえ正式な絵図と同じように作成され、江戸時代の間はずっと弘前城内で大切に保管されていたようです。



▲津軽弘前城之絵図

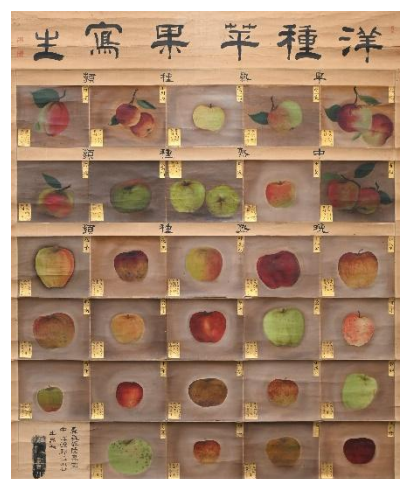
久々の展示をおこなう本展では、そのサイズ感など「原本ならでは」

の面白さを体感していただければ嬉しいです。(※原本のサイズは212cm×199.6cm、なかなかの迫力があります！)

なお、今回の展示では絵図の見方を図鑑っぽくサポートするヒントパネルも設置しています。お手持ちのスマートフォンで地図アプリをつかしながら、今と 380 年前の弘前を見比べる時間旅行！なんて楽しみ方もいいかもしれません。

(担当学芸員 工藤)

・明治のりんごの大図鑑！



▲「洋種苹果写生」明治 23 年(1890)年

りんごの見本油絵を掛軸に仕立てたもので、果実の大きさや色が一目でわかります。全部で 29 種の品種が掲載され、名称の他に収穫時期(熟す時期)や甘い／酸っぱいなども書いてあります。まさに、今のりんご図鑑のようです！

この作品は、明治 23 年(1890)の第三回内国勸業博覧会に出品されたもので、出品者は旧中津軽郡清水村にりんご園をかまえていた士族出身の佐藤喜一郎でした。



▲一部拡大「酔美人」

りんごの名称は、同年刊行された弘前りんごの品種名鑑『苹果要覧』と異なるものも多く、これらは喜一郎のりんご園にてオリジナルで付けたもととされています。

状態があまり良くないため、普段の常設展では写真パネルで紹介していましたが、青森県りんご植栽150周年にあわせて久しぶりに実物を展示しました！

(担当学芸員 高橋)

■グッズ販売コーナー展開中！

猪形土製品(愛称いのっち)をデザインしたトートバッグで、お弁当を入れるのにピッタリ！お出かけにおすすめです！



▲「いのっちおさんぽトートバッグ」

▲今までのトートバッグもあります

■休館日のお知らせ

展示替え 1月13日～2月6日

上記期間は博物館の利用ができません。あらかじめご了承ください。